

イデックスオイルレポート ~For a week~

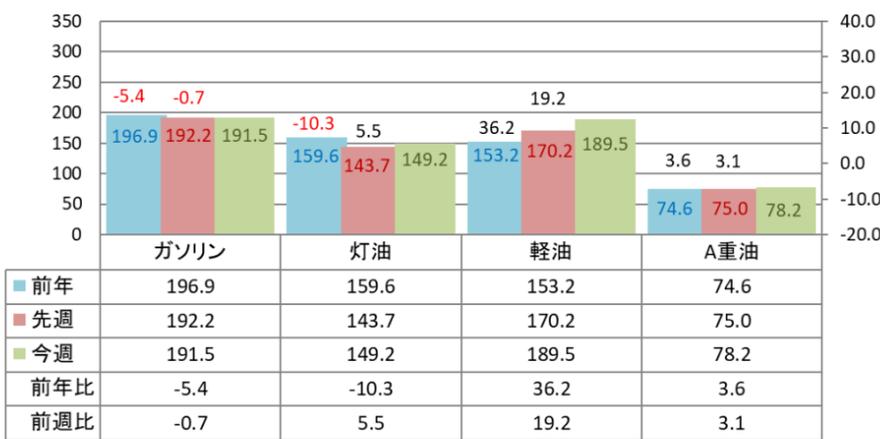
2021/5/14作成 (株)新出光

【概況】<コロナル・パイプラインの稼働停止と再開の影響を大きく受けた原油市況>

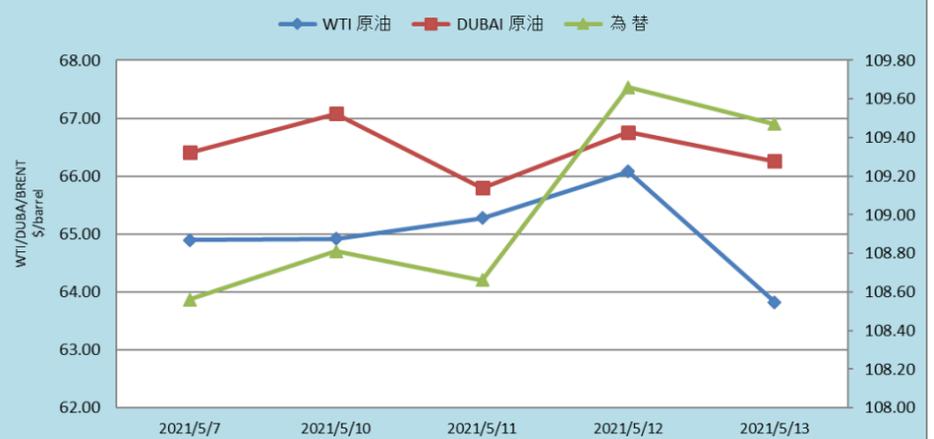
- 7日、4月の米雇用統計では、失業率が6.1%と前月から0.1ポイント悪化しました。非農業部門の就業者数は、前月比26万6000人増と、市場予想(97万8000人増)を大きく下回りました。外国為替市場では、雇用回復ペースの鈍化の背景を受けてドルが対ユーロで下落しドル建て商品としての原油は、割安感から買われました。米株が取引時間中の最高値を更新したことも支援要因となりWTIは、64.9ドルとなりました。
- 10日、米最大規模の石油パイプラインを運営するコロナル・パイプラインは7日ランサムウェアと呼ばれる身代金要求型コンピュータウイルスの被害を確認しました。メキシコ湾岸の製油所から東部沿岸をつなぐ全長5500マイル超の輸送管の稼働をすべて停止したと発表しました。これを受けガソリンやディーゼルなどの供給が滞るとの懸念が強まり相場は一時65ドル台後半を付けましたが、その後売られ64.93ドルとなりました。
- 11日、コロナル・パイプラインは、サイバー攻撃の被害を受け稼働を停止したパイプラインについて、今週末の実質的稼働を目指すとして発表しました。しかし、ガソリンやディーゼルなどの燃料供給が逼迫すると懸念が再燃し買いが優勢になりWTIは、65.28ドルとなりました。このほか石油輸出国機構(OPEC)が月報で、今年のOPEC産原油世界需要予想を日量20万バレルと小幅ながら上方修正したことも相場の支援材料となりました。
- 12日、米エネルギー情報局(EIA)が発表した週間石油在庫統計によれば米原油在庫は40万バレル減少し、市場予想の280万バレル減に比べて小幅な取り崩しにとどまりました。ただ需要の目安となるガソリンの4週平均供給量は、前年同期から41%増加しています。またパイプラインの操業停止により、南・東部の州を中心に燃料供給が不足しており、問題の長期化をにらんだ石油製品の値上がりによりWTIは、66.08ドルとなりました。
- 13日、コロナル・パイプラインは、パイプラインの稼働を再開したと発表しました。同パイプラインは、テキサス州からニューヨーク港を結び、石油精製品の45%を輸送しており、米国の一部の州でガソリン価格の高騰が懸念されていましたが、稼働再開の報を受けて、供給不安が後退し原油が売られました。インドで新型コロナウイルスの感染拡大が深刻化していることも下押し要因となりWTIは、63.82ドルとなりました。

5月14日 17:00現在 WTI原油 63.68ドル 為替 1ドル 109.33円

国内石油製品在庫 5月8日時点 単位万kl



ドル/bbl WTI・DUBAI / 為替 相関グラフ 単位 円



次回元売変動予測

5/20~ 元売変動予測

ガソリン	→	-1.0~-0.5
灯油	→	-1.0~-0.5
軽油	→	-1.0~-0.5
A重油	→	-1.0~-0.5
LSA	→	-1.0~-0.5

【製品卸価格】<月間リンク玉の 販売攻勢強まる>

《今週》今週の元売り仕切り改定は「+2.5円」の値上げでした。今回の改定が、値上げになることは予測できていたため月間リンク玉は、商機を13日以降に見出し、高値提示で自社玉を温存し様子見をしていました。そのため市況の中心は、週決め玉で月間リンク玉が販売攻勢をかけてくる前に枠を消化しようとする動きもあり、12日頃には、週決め枠を消化した販売業者も出たようです。

《5月15日以降》次回の元売り改定は、現状の原油コストで「-1.0円~-0.5円」の予測です。5/13以降、月間リンク玉も販売を本格的に開始しました。米コロナル・パイプラインの稼働停止で急騰していた原油価格ですが、稼働再開の報を受けて大幅下落となりました。そのため月間リンク玉や油槽所玉は、先安と見てさらに提示価格を下げて受注獲得に本腰を入れてきました。一方、新型コロナウイルスの感染者は、広がっており緊急事態宣言や蔓延防止措置の影響で人の移動も制限されており月末にかけて店頭出荷は、思わしくないことが予想されます。そのため枠消化を狙った販売が増え、週末から週初めにかけて徐々に市況は、下がってくると思われます。

※現段階の原油コストによる予想です。

【次世代エネルギー】<再生エネルギーで製造されるグリーン水素エネルギー>

温室ガスの排出量による水素分類では、グレー水素・ブルー水素・グリーン水素に分けられます。グレー水素は、天然ガスを改質して製造する改質水素や製油工程のナフサ分解過程で発生する副産物で製造する複製水素がありグレー水素を1トン製造すると10トンCO₂が排出されます。ブルー水素は、グレー水素の製造過程で排出されるCO₂を集めて貯蔵し温室ガスの排出を減らした水素です。グリーン水素は、再生エネルギーの電力で水分解して製造する水素です。再生エネルギーの発電電力を利用するため、温室効果ガスを排出しません。また水素の新たな利用方法の研究も進んでおり燃料電池・水素エンジン自動車や船舶用燃料・発電用燃料に混ぜて使用することによりCO₂排出を減らす研究も進められており貯蔵と輸送ができるエネルギーとして大いに期待されています。ブルー水素は、今後10年間の成長分野になる可能性が高く、ゴールドマンサックスによれば、グリーン水素は2050年までに世界のエネルギー需要の25%を供給し10兆米ドルの市場になると見立てています。